

富士吉田外河家旧蔵の身祿尊像



右の写真は、「身祿産湯の泉」で、これも長らく荒廃しておりましたが、久保氏と所有者の清水氏によって整備され、清らかな流れを取り戻しました。――
公的な機関ではありませんので気軽には訪問できませんが尊師の御心を感じられる地です。――



敬神の道標 ⑤

三十一日の御巻

食行身祿尊師が御入定の際、田辺十郎衛門に口述された、「三十一日の御巻」は、富士講の真髓を示す經典と評価されていますが、かつて「開けば目がつぶれる」などと、過度の信仰の対象となつたために、その内容はあまり一般には流布されませんでした。

昭和三十六年に九世管長 宍野健次郎によって『定本三十一日の巻』が孔版による百部限定として刊行されました。これは、翻刻の正確さ、内容の客観性からも、未だにまさることのない一級の解説書でありましたが、部数の少なさ故に世に知られぬ存在でありました。

昭和四十六年には岩波書店の『日本思想大系』の「民衆宗教の思想」に異本が紹介されています。現在入手可能なのは、岩科小一郎氏『富士講の歴史』『富士吉田市史史料編第五巻近世』。研究書には『富士信仰研究創刊号』があります。

訃報

本教の巨星

吉野頼治総務 帰幽

しめやかに葬儀齋行

本教重役の総務を務め、永年管長殿と共に教団隆盛に尽力された、高知教区斯光教会長吉野頼治大教正（八十二歳）が、平成二十三年十月二十二日都天還元されました。急な報せを受けた管長殿はじめ本部一同は、驚きと悲しみに包まれながらも高知へ駆けつけました。葬儀は斯光教会による神式で、管長殿ご参列のものと教嗣殿が齋主を務め、教会教師の齋員奉仕、また教内各地より吉野総務を慕う役員や教師が多数参列する中、しめやかに営まれました。

管長殿は弔辞で、「若い時から本部で一緒に苦労を重ねて来た吉野総務、今の本教があるのは貴方のおかげです。本当にありがとうございます。ごさいます。と、涙をこらえながら遺影に語りかけていらつしやいました。出棺では、「親父を富



士の行者として送りたい」という、喪主で吉野総務のご長男正人講義（本部神事課長補佐）の希望もあって、本部の参列者全員で富士神法六根清浄の懸け念浄を唱える中のお見送りとなりました。



本部奉職中若き日の吉野総務

吉野頼治大教正 経歴

昭和五年四月生まれ、同二十五年神道扶桑教教導職試験を拝命、扶桑教大教庁奉務の後、生家の高知教区宗教法人扶桑教斯光教会に奉職。その間、本部会計課長、会計顧問を歴任、同五十七年大教正及び神事師範を拝命、同五十八年扶桑教責任役員参元に就任、平成六年神事監を拝命。同十三年扶桑教責任役員総務に就任、勤続五十年表彰受賞。平成二十三年十月二十二日午後十二時二十八分帰幽。享年八十二。